
赤 潮 情 報 (赤 潮 警 報 続 報 No. 4)

鹿児島県水産技術開発センター
 平成 1 7 年 8 月 1 7 日

八代海赤潮警報続報No.4

[1] 8月16日の調査結果

(1) 赤潮生物の出現状況

東町脇崎沖，桂島東沖，水俣沖などで，コックロディニウム ポリクリコイデスを確認し，桂島東沖では本種による着色域を確認しました（最高500cells/ml）。

また，シャトネラ アンティーカについては，東町脇崎，獅子島北東沖で最高5cells/ml確認し，沿岸部（午後）については，脇崎沖，本浦沖1cells/ml確認され，その他の沿岸部については確認されませんでした。

(2) 海況

表層水温は調査海域で28.3～31.2 で平年同時期より高め，塩分は31.5～32.4で平年同時期よりやや高め，透明度は平年同時期並みとなっています。

水温：平均 30.2 (27.2)

塩分：平均 32.0 (31.5)

透明度：平均 7.0m (8.0m)

()はH元～H16年8月の平均値（同平年値）

[2] 今後の赤潮発生の予想

コックロディニウム ポリクリコイデスについては，ここ数日，桂島周辺において着色海域が確認されており，風や潮流などの影響を受けながら本種の水塊が移動しているものと思われます。

また，水俣沖で222cells/ml確認し，熊本県によると津奈木沖で1,804cells/ml確認されるなど，依然として細胞数の多い状況が続いています。

本種は高水温（27～28）・高塩分（32～33）を好むとされており，今回の調査結果では，10m層の平均水温が26.4 でしたので，依然として，本種の最適水温・塩分にあり，今後，本種が増加することが考えられます。よって，引き続き十分な警戒が必要です。

なお，沿岸部については，コックロディニウム ポリクリコイデスの高密度の水塊が，風などで漁港内に吹き寄せられる可能性がありますので，畜養中の魚についても注意が必要です。

シャトネラ アンティーカについては細胞数が一桁台までに減少していますので，このまま終息に向かうと思われますが，御所浦島や八代海北部では再増殖傾向にある海域もありますので，しばらくの間は，水の色や魚の状態に十分に注意を払うとともに，検鏡によるプランクトンの監視が必要です。

